



吉田 俊道先生プロフィール

Toshimichi Yoshida

よしだ・としみち NPO法人大地といのちの会理事長・菌ちゃんふぁーむ園主・農学修士。1959年、長崎市生まれ。九州大学農学部大学院修士課程修了後、長崎県の農業改良普及員に。96年、県庁を辞め、有機農家として新規参入。99年、佐世保市を拠点に「大地といのちの会」を結成し、全国に生ごみリサイクル菌ちゃん野菜作りと元気人間作りを普及している。2007年、同会が総務大臣表彰(地域振興部門)を受賞。2009年、食育推進ボランティア表彰(内閣府特命担当大臣表彰)。長崎県環境アドバイザー。主な著書は「生ごみ先生の元気野菜作り超入門」「菌ちゃん野菜作り&元気人間作り」「お野菜さんありがとう〜子どもと一緒に元気野菜作り」



講演を聞いた方の感想

「命あるものには意味がある」この言葉がとても私を勇気づけてくれました。命ある私だって何か意味がある。私は今日聞いたことを必ず話します。私にだって「人に伝える」という出来ることがある!と思えました。話がおもしろくてずっと聞き入ってました!!本当にありがとうございました。

子どもに共生体験をさせたい。実感させてやりたい。まず家庭からがんばってみます。まず明日は雑草だらけの庭の草を土に入れ、生ごみを土に…からですね。今の私の仕事は学校給食を作っています。自分で体験し、発信できる立場です。私次第で変わるのだと意志を強くもって、土と共に生きたいです。

元気な野菜には虫がつかないという話が特に納得しました。生ごみリサイクルの話をもう少し詳しく聞きたかったです。

ユーモアたっぷりの話の中に、生きる本質が盛り込まれていました。深みのある内容でした。消費者へ訴える力がすばらしかったです。多分今日の講演を聞いて行動が変わる人が大勢いることでしょう。PTA単位で一般の保護者の方へも聞かせていただけたらと思いました。



改めて、食の意味を知った気がします。反省することが随分ありました(^ 0 ^);

早速、家に帰って、息子に話しました。いただいた人参(皮付きで)を使って、鍋一杯に煮物をしたのですが、こころに届いたのか、パクパク、モリモリと息子と主人が食べてしまいました。食べている姿を見ながら心の中で、これまでの反省を込めて「ごめんなさい」と繰り返しました。

食育とは、今までは漠然と「栄養学のひとつかな」としか認識していませんでしたが、今日の講演に参加して、「食をとおして、いのちの素晴らしさといのちへの感謝を実感するところを育むとくみ」だと解釈しました。とても感動しました。地球環境の変化、すさんでいく社会、イビツな経済、嘆いてばかりで夢を持ってないこれまででしたが、よしひとつ自分から変わろう、と強く思えました。